

研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 地域包括ケアに関する事業・地域マネジメントの展開支援

研究開発センター

川越雅弘 教授、南拓磨 特任助教、河合麻美 研究開発コーディネーター

【研究分野】 ケースマネジメント、事業マネジメント、地域マネジメント
【キーワード】 地域ケア会議、マネジメント、社会資源
【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid/980.html>



研究概要

地域包括ケア関係者（市町村／地域包括支援センター／各種コーディネーターなど）には、事業／地域に対するマネジメントを適切に展開することが現在求められていますが、①現状が把握できていない、②評価の仕方がわからないなど、様々な課題が山積している状況にあります。

そこで、研究開発センターでは2020年9月に「地域包括ケアマネジメント支援部門」を立ち上げ、地域包括ケアや地域づくりに関する各種事業の展開支援、介護保険事業計画の策定支援を行っています。

研究紹介

- 主な支援メニューは、①データ分析支援／②事業マネジメント支援／③地域課題解決に関わる関係者のネットワーク構築支援／④施策動向に関する情報提供の4つです。

1) データ分析支援

- 厚生労働省の既存データや市町村から提供頂いた認定・給付データなどをもとに、市町村担当者等からの要望に応じてデータ分析を行います。
- 図1は、厚生労働省の既存データをもとに算出した性別年齢階級別認定率、図2は、同じデータを用いた性別年齢階級別認定率で、5歳刻みで推移をみるることができます。
- 図3・4は、A市から提供を受けた複数年の認定データをもとに、要介護度別要介護度重度化率を算出し、性別及び認知症の有無別にみたものです。これら分析から、①認知症があると重度化しやすい、②男女とも、要支援～要介護1の重度化率が高いなどの実態がわかります。

図1.性別年齢階級別認定率

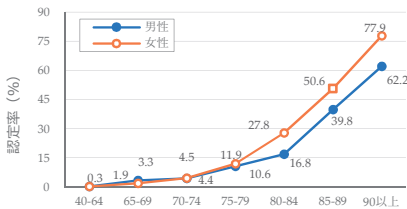


図2.性別年齢階級別認定率の推移(90歳以上)

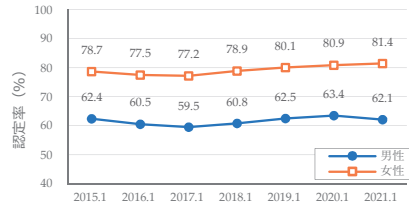


図3.性別にみた要介護度の重度化率

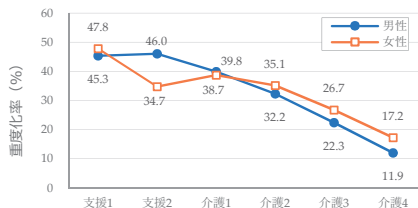
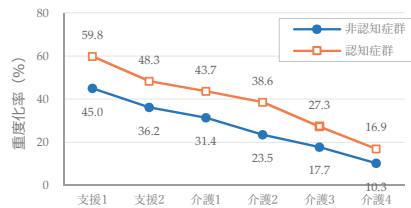


図4.認知症の有無別にみた要介護度の重度化率



研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 地域包括ケアに関する事業・地域マネジメントの展開支援

研究開発センター

川越雅弘 教授、南拓磨 特任助教、河合麻美 研究開発コーディネーター

【研究分野】 ケースマネジメント、事業マネジメント、地域マネジメント

【キーワード】 地域ケア会議、マネジメント、社会資源

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid980.html>

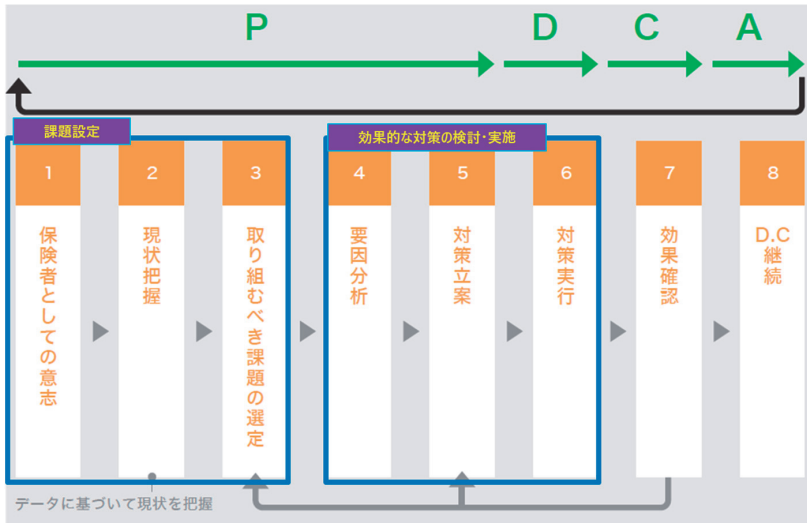


研究紹介

2) 事業マネジメント支援

- 図5は、介護保険の各種事業を展開するためのPDCAサイクルの流れ図です。8つのStepが示されていますが、Step1～3は「課題設定」部分、Step4～6は「効果的な対策の検討・実施」部分です。そしてStep7が「評価」です。
- 市町村の介護保険業計画をみると、目指す地域の姿は設定しているものの、①課題設定が抽象的（具体化されていない）、②現状を引き起こしている原因が分析されていない、③原因に対する対策が取られていない、④事業により何がどう変わると期待したかが整理されていないため、事業の評価ができていないなどの課題が見受けられます。
- 本研究では、①Zoomを使った事業展開方法に対する個別指導、②前述したデータ分析支援などを通じて、市町村ニーズに応じた支援を行っていきます。

図5.事業を展開するためのPDCAサイクルの流れ



出所) 厚生労働省老健局介護保険計画課：介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（2018/7/30）より引用

研究開発センター 地域包括ケアマネジメント支援部門 地域包括ケアに関する事業・地域マネジメントの展開支援

研究開発センター

川越雅弘 教授、南拓磨 特任助教、河合麻美 研究開発コーディネーター

【研究分野】 ケースマネジメント、事業マネジメント、地域マネジメント

【キーワード】 地域ケア会議、マネジメント、社会資源

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid980.html>



研究紹介

3) 地域課題解決に関わる関係者のネットワーク構築支援

- 地域課題を解決するためには、①地域課題を知っている人、②地域課題を解決する多様な手法を持っている人が交流するとともに、協働して課題解決を具体的に図っていく必要があります。
- 現在、北本市社協と連携し、“ごちゃまぜの会”を立上げ、地域づくりに関わる様々な関係者の活動状況の把握を行っています。今後、図6のフォーマットを使って、関係者の取組内容や支援する上で困っていることなどを整理していく予定です。
- 厚生労働省は、地域共生社会の実現に向け、重層的な支援体制整備事業を推進していますが、様々な分野の相談に対応していくためには、①相談窓口の設置、②相談対応者の資質の向上に加えて、課題解決を推進してくれる地域の様々な資源とつながる必要があります。
- 本研究で整理された地域の社会資源に関する情報は、同事業の出口戦略としても活用できると考えています。

図6 地域資源整理のためのFormat案



NPO法人 ReMind (公益社団)

支援の対象

子ども 口青年 障がい児・障がい者 妊婦 親類

その他()

活動理念・目指していること

障がいがあるなしに関わらず みんながたがってみんなない 包摂社会を創りたい

現在の活動内容・提供可能な内容

口生活支援(衣・食・住) 学習支援 就労支援 医療支援 居場所支援

■ その他(相談) 障がい者社会で子どもを育てたい!

[主な活動内容-PRポイント-団体の運営体制]
 ハビリテーション(精神を大切に医療と地域を繋ぐ活動)をしています
 高齢に身の回りが危険だと感じるリクルーオンラインで実施
 ●まちの保健課(産後ママ育児相談・高齢者の買物所)
 出張(まちの保健課)も行っているため、お気軽にお声がけ下さい
 ●オンライン健康講座(毎月第4土曜日13時~オンライン開催)
 ●Youtubeチャンネルで発信(リアリティー社会福祉)
<https://www.youtube.com/channel/UC8x-lyGwKQ1bT3I64dHQ>

子ども、支援者、障害者、高齢者、働く人を対象に、理学療法士・医師・作業療法士・言語聴覚士・看護師・介護福祉士ほか様々な専門職や一般の方からメンバーとなりチームで社会課題解決に向けて活動しています。一緒に活動してくれる正会員・応援団になってくれる賛助会員、募集中心!

当事者のニーズに合った伝えたいこと/伝えられたいことについて

産後うつはひとりで抱えきれない、産後ケアにも希望があり「育児もしている方が増えてお悩み、お任せが多い、育児しきれないから、育児相談でも相談を受けたいが対応していない、産後ママ自身のケアが不足しており、体力低下、腰痛、授乳量などの症状がみられる方が少ない、育児中で自分のことが頭に入らない、もやもやしているのを言葉だけで伝えるのが苦しいと感じています。

他の活動団体の方や地域住民の方に支援して欲しいこと

一歩踏み出せるように身近な相談が出来る「まちの保健課」活用して欲しい、ReMind職員には様々な医療福祉専門職がいるので、様々なテーマでかつ時間的な余裕が出来るようにお願いしています。(ケア・産後ケア・子育て相談、更生相談、障害など) 気になる内容でも一緒に相談したい内容を自分から決定相談でも相談を受けたいと思っています。場所の提供、セッション空き、空きスペースなどありましたら、ぜひご連絡お願いいたします。

連絡先

〒338-0001 埼玉県さいたま市中央区上落合2-3-2
 新都心ビル3F 303号室 C/O事務所
 (担当) 代表理事 河合麻美 COOオフィス内
 TEL / E-mail: remind_pos@gmail.com
 HP: <https://nporemind.org/>
 FB: <https://www.facebook.com/nporemind>



アピールポイントなど

- 事業マネジメントに対する支援ですが、相談は無料です。ただし、**原則はオンラインでの打合せや相談、ないし、メールでの相談対応とさせていただきます。**
- 独自の市町村データの分析を希望される場合、埼玉県内の市町村であれば、エクセルでデータ提供を頂けるのであれば無料で対応します。分析結果に関しては、パワポやエクセル資料として返信します(ただし、印刷やデータ入力などの実費が発生する作業には対応できません)。
- 支援内容により、費用が発生する場合もあります。
- 連絡先等に関しては、大学のHPを参照ください。
<https://www.spu.ac.jp/research/centers/tabid980.html>